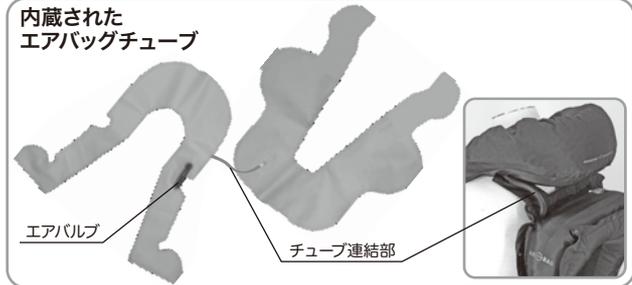


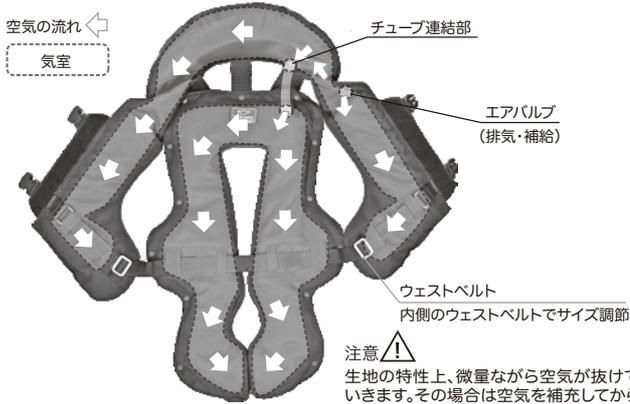
# 3 構造

## 3-2 気室(エアバッグチューブ)

- 気室は、強度のあるナイロンオックス(210D)にウレタン加工を施した素材を使用、溶着加工で成形しています。膨張時に衝撃を出来るだけ多く吸収するようにしてあります。
- エアポンプで膨らませた際の気室の圧力は、最大膨張時30kpa(0.3kg/cm<sup>2</sup>)程です。
- 膨張防護服は、衝撃によるダメージを少しでも和らげるために作られたものであり、接触物の形状及び、衝撃の度合いにより、破損等も考えられます。



※デザインやサイズ等によって形状が異なる場合があります。



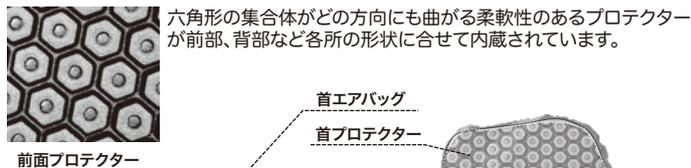
**注意** 生地特性上、微量ながら空気が抜けていきます。その場合は空気を補充してからご使用ください。

7

## 3-3 エアバッグとプロテクターの二重構造

エアバッグとプロテクターの二重構造で衝撃を緩和します

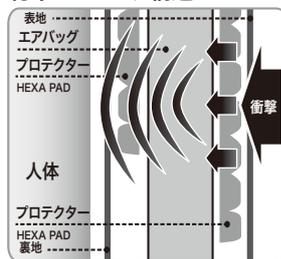
### エアバッグ + プロテクター



#### 首エアバッグ構造



#### 背中心エアバッグ構造

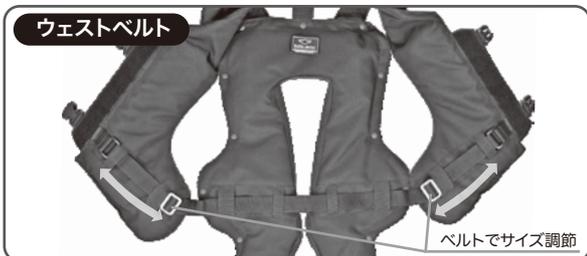
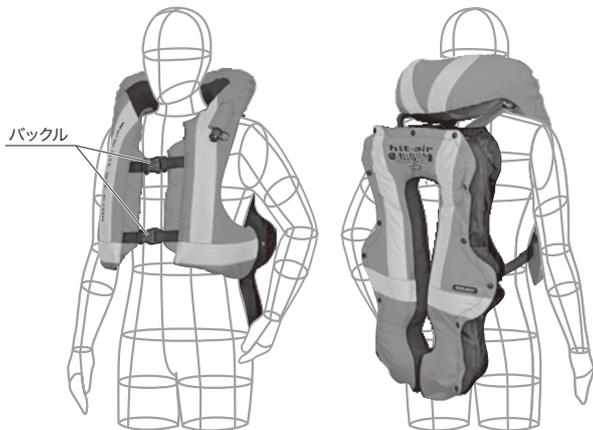


8

# 4 使用方法

## 4-1 着用方法

- 警告** 膨張防護服は必ず、外衣として、サイズのあったものを着用してください。
- 警告** 膨張防護服を着用する際、気室(エアバッグ)を傷つける恐れのあるもの、突起物、鋭利な物はいれしないでください、着用前には必ず取り外してください。(例:ピン留めした名札、バッジ、ペン、ネクタイピン等) 膨張時に気室(エアバッグ)を傷つけ、正常に膨らまない恐れがあります。
- 警告** 必ず身体にフィットする様にウェストベルトを調節した上で着用してください。



9

## 4-2 膨張方法

### エアポンプによる手動膨張方法



エアポンプの補給口をエアバルブに差し込みポンプで空気を補給し膨らませます。



#### エア補給ポンプ(附属)

空気が抜けて圧力が弱くなった場合などに、防護圧力を上げる際、ポンプで補給します。  
※エア補給ポンプの形状や色が異なる場合があります。

**注意** エアポンプで膨らませる際、必要以上に膨らませると破裂する場合があります。12kps以上に強く膨らませても衝撃緩和の効果はほとんど変わりません。空気の入れすぎにご注意ください。

#### 膨らます目安

ベスト背中のボタンが全て閉じた状態(非膨張時)でエアポンプで空気を入れます、全てのボタンが外れ膨らみます、右前肩部のエアバッグの弾力が付属のスポンジの弾力(12kpa)になれば膨張完了です。



※右前肩部以外の部位で弾力を合わせないでください、他の部位では弾力が異なり割れません。必ず右前肩部の部位で調整してください。



10